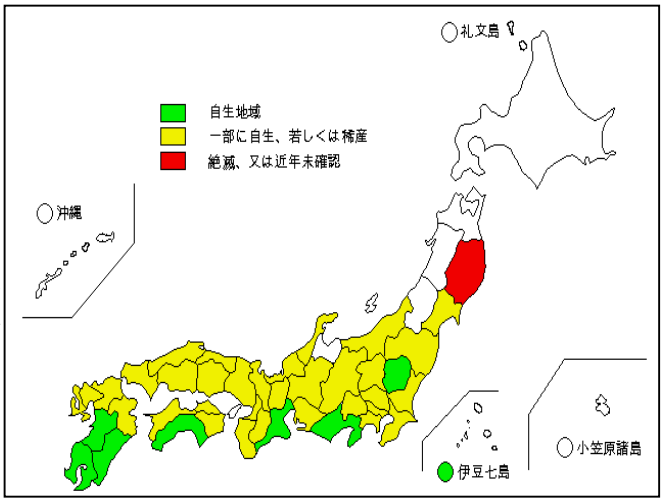
#173

セッコク

Dendrobium moniliforme

セッコク（愛知県奥三河　09.6/7）

宮城県以南に自生する着生蘭です。日本の着生蘭の中ではフウランと並び最も有名で人気のある蘭で和製デンドロビュウムです。斑入種や変わり花などの選別固体は「長生蘭」として古くから栽培されています。原種は渓流沿いの岸壁や樹木に着生します。岩に着く場合はバルブが赤く締まった姿に、木に着く場合にはバルブは長く薄い色になる場合が多いです。4～6月に純白～桃色の花を咲かせます。大きな一枚岩にびっしりと群生する姿は圧巻です。一年に一つ新たなバルブを形成し、昨年度または一昨年度のバルブに花芽を付けます。基本的には落葉種ですが、冬季にも数枚の葉は残っていることが多いです。イワヒバと大変仲がよく、渓流沿いの大岸壁ではムギラン、マメヅタラン、ウチョウランなどと一緒に自生している姿も見られます。木に着生する場合は神社やお寺などの大きな古木や、杉の木の高い枝に着くことが多いです。結構な芳香もあり、日本人好みの渋さと花の鮮やかさ、個体ごとの変異の多さなどから非常に観賞価値の高い着生蘭です。



寒冷地を除く全国の冷涼な山地に自生します。

岸壁の大群落(愛知県奥三河09.05/04)

栽培、増殖は盛んに行われており、商用生産も幅広く行われていますが、それらはいわゆる長生蘭に対してであり、採算の取れない原種については未だに盗掘が多く、自生地を発見するのは困難です。それも業者による徹底的な盗掘が後を絶たず、70～80年代の山野草ブームの頃はまさに手当たり次第の盗掘で、トラックの荷台いっぱいに盗んで行く業者もかなりいたと聞きます。それに加え、自生場所が渓谷沿いと限られるため、ダムや道路開発などで一気に消滅する自生地も多く、ここ3～40年で日本全体の8割以上の自生地は姿を消したと考えられます。幸い現在では手の届く範囲の自生地は全て盗掘されつくし、人の手の届かない場所にのみひっそりと自生していますので、皮肉なことですがこれ以上の園芸目的採集による自生地減少は少ないはずです。（それでもブームのときは崖の上からロープをたらし、セッコクやウチョウラン、イワヒバを壁から引き剥がして根こそぎ盗んでいたそうなので、人間の浅ましさに背中が寒くなりました）

Document and photo by LittleFlower 2009

岸壁の大群落(愛知県奥三河09.05/21)

岸壁の大群落(愛知県奥三河09.06/07)

栽培は非常に容易で、東北地方以南なら庭木につけても良し、庭石につけても良し、ヘゴやコルクにつけて吊るしても良し、鉢にミズゴケ盛りで植えても良し、盆栽のイワヒバにつけても良しです。管理は風通しの良いところで乾燥させすぎないようにするだけです。地面に直接置くとナメクジに食害されるので、棚を作って工夫して置きましょう。冬季は霜にだけ気を付けてください。(自生地では霜が降りたり雪が積もっても元気な場所もありますが念の為です)増殖も容易で、根ぶせ(バルブ吹かし)、株分け、自然播種、フラスコでの無菌発芽もできます。環境があっていれば自然受粉で種子は得られますし、熟したら勝手に裂果散開し、親株の根元や近辺に実生苗が生えてくることもあります。芽だしは葉っぱが1～2枚で、バルブも小さくまんまるでムギランみたいに見えかわいらしいです。

杉の小枝についた実生苗(愛知県奥三河09.03/21)

花のアップ(愛知県奥三河09.06/07)

入手も容易で、山野草店はもちろん普通の花屋さんやホームセンターでも売っています。安価で大量に出回っているのは長生蘭の生産過程で選別から漏れたものです。斑入りがあったり豆葉があったりと様々で、どれも非常に強健です。原種はお知り合いに分けていただくか、自生地の落下株を探すのが良さそうです。本サイトを御覧の方は当然盗掘なんてされないことは承知しておりますが、今では数少ない貴重な自生地ですので何卒盗掘はおやめ下さい。　近縁種として南方系のキバナノセッコクや沖縄固有で大型のオキナワセッコクがあります。南西諸島のリュウキュウセッコクはエリア属(オサランの仲間)です。ちなみに大明セッコクとして市場に出回っているものがありますが、これは台湾原産のスペシオサムのことです。